

総合計画 市民懇談会 結果要旨

日時	令和7年8月2日（土）午前10時30分～12時30分
会場	野洲図書館本館ホール
出席者	【参加者】（現地）13名、（オンライン）2名 計15名 【市】市長、政策調整部長、政策調整部次長、総合調整課長、総合調整課員
趣旨	令和7年度に策定を進めている総合計画の後期基本計画に市民の皆さまの意見を反映させるため、総合計画の5つの分野をテーマとして市長と意見交換を行う懇談会を開催した。

<意見交換でいただいたご意見>

分野1：子育て・教育・人権

- 自然に恵まれている野洲市の良さや、郷土から輩出した偉人といった野洲ならではの魅力を子どもたちが知り、地元を誇りを持つことでずっと住み続けたいと思うまちを目指して欲しい。
- 子どもたちが自分から学べる、自分から動ける、自分で選べる機会が増えていくような取り組みを進めてもらいたい。
- 子育て世代に選ばれるまちにしていくには学習環境の整備も考えておく必要があるのではないか。
- 共働き世帯が増えており、親が以前のように子どもの教育に関われないため、市が支援してもらえる環境を作ってもらえると助かる。
- 子どもが集まって遊べる場所として、学校のグラウンドを開放することや、永原御殿を皆が集える場所にすることができないか。
- 野洲市がふるさとで良かったと子どもたちが思えるようなまちづくりをお願いしたい。

分野2：福祉・生活

- 市民が夢を抱けるような計画にして欲しい。野洲の魅力となる施策を作って欲しい。
- やることがなく、受け身の姿勢の高齢者が多いと感じる。自分からやりたいと思えることを引き出すことで、いきいきとした生活ができるようにならないか。
- 高齢者でも元気で活動できる人がボランティアに参加しやすい環境ができれば、地域で支え合うこともできる。活動が評価される仕組みが必要だと思う。
- 子どもと高齢者がふれあえる場所がもっとできると良いと思う。
- 老後を考えると、医療機関にアクセスしやすい交通手段は重要である。様々な手法があると思うが、試して駄目なら次の手段を考えれば良い。どんどん挑戦する行政であって欲しい。
- 総合体育館のトレーニング室には資格を持ったトレーナーがいないため、十分に機能が発揮できていない。野洲市ならではの施設をもっと活用してもらいたい。

分野3：産業・観光・歴史文化

- 野洲市ではふるさと納税が一部の返礼品に集中している。セットで打ち出すことを市が仲立ちできないか。他の返礼品も盛り上げられるように考えてもらいたい。
- 安心安全な米や食材の生産地をつくることも進めていてもらいたい。
- 兼業農家の置かれた環境は厳しいが、それでも田んぼは残すべきだと考える。地元の物が食べられることは大事であり、そうした機会ができれば農業への理解も広がるのではないか。
- 地域に作物の直販ができるような場所が作れないか。地元でそうした場所があれば、作り手のやりがいにも繋がり、地域の交流にもなるのではないか。
- 野洲には三上山以外にも景観が良く歴史のある山があるが、市民にもあまり知られていない。地元と行政が話し合って上手く活用できれば、もっと野洲の素晴らしさを認識してもらえと思う。
- 野洲市には山、琵琶湖、川と豊富な観光資源があるが活用できていない。希望が丘も活用したトレイルのイベントで高齢者の健康づくりを行うといった、観光を前面に出した施策も考えら

れるのではないか。

- 博物館はかなり老朽化しているが、全国に誇れる施設である。市内だけで考えるのではなく、全国的にクラウドファンディングをやれば資金も集まるのではないか。

分野4：環境・都市計画・都市基盤整備

- 野洲川の河辺林は非常に貴重な資源である。この場所を潰して高専を建てる代わりに、駅前の緑地化や河辺林を埋め合わせる場所を作ることも考えて欲しい。
- 企業誘致も重要だが、野洲市の宝物である自然を残していくことも忘れないで欲しい。
- 市街化区域が少ないことが市の課題だが、いつまでにどれくらいの面積の編入を目指すのか定めるべきではないか。
- 電車基地はあるが市民が増えていない。辻町周辺を住宅地にしてはどうか。
- 駅前に体育館とホールの機能を併せ持ったエンタメアリーナを作れないか。
- 駅前整備やさざなみホールの改修にはお金がかかる。多くの財政を圧迫する要因がある中で、総合体育館周辺の拠点整備は思い切ってなくすことも考えてもらいたい。
- 各地域の老人憩いの家は耐震ができておらず非常に危険であり、地震発生時に地域住民が集まることもできない。こうしたところも対策を考えてもらいたい。
- 古い集落ではブロック塀のある細い路地が多く、地震が来れば倒れて人的な被害が出る恐れがある。ある程度行政が負担してでも、先に手を打つべきではないか。

分野5：市民活動・行財政運営

- 市民活動では、どの団体も高齢化によって後継者が問題となっている。ボランティアを始めようとするようなインセンティブ等のきっかけづくりが必要ではないか。生きがいづくりや健康維持にも繋がるものであり、ボランティア活動の良さを啓発し、活動したくなるような施策を検討してもらいたい。
- 地域の高齢化が進み、空き地が多くなっている。そこに新しい家が建って新たな住民が入ってくるが、既存の高齢住民と若い住民が二層化してしまっている。こうした現状を把握し、まとまりを持った自治会運営ができるように支援してもらいたい。
- 市からの情報が出るのが遅くなっているように感じる。
- 様々なツールも活用して、もっと合理的に沢山の人を交えて意見交換ができる方法を考えて欲しい。
- 現状を把握するにはもっと多くの意見、特に若い人の意見が欲しい。現状把握を間違えるとそこから進めていく道もずれてしまう。
- 市民には客観的事実を理解いただいた上で意見をもらうことが重要である。誤解に基づく意見では意味がなく、それに基づいて行政が動くことになってはいけない。客観的な事実を伝えることは難しいが、様々なツールを用いて発信を充実させた上で意見をもらうことや、若い人の意見をもらうことにチャレンジしてもらいたい。
- これから生まれてくる子どもたちが将来苦勞しないお金の使い方をしてもらいたい。